

経営政策科学

2010.4.19

東京大学大学院総合文化研究科・教養学部

清水 剛

e-mail: tshimizu@waka.c.u-tokyo.ac.jp

内容

この授業では、日本企業を取り巻く様々な制度や仕組み、すなわちいわゆる「日本型企業システム」というものを取り上げ、実際にどのような仕組みが動いており、またそれはなぜ機能しているのか、どの程度日本企業に特殊なものなのか、今後どうなっていくのかといったことを検討していく。

1990年代初頭のバブル崩壊後、日本企業はかつての「日本型企業システム」に対する自信を失い、自分たちの企業においてどのような制度や仕組みを作り、動かしていけばよいかということを探求し続けてきている（この授業を受ける人のほとんどはバブル期における日本経済の好調さを知らないわけだが...）。おそらく、そのような探求を行う際の出発点はやはり戦後日本企業において実際に動いていた制度や仕組みを考えることだろう。本講義の最終的な目的は、いわゆる「日本型企業システム」の検討を通じて、日本企業、あるいは一般に企業というものの制度・仕組みやそこで起こっている現象について考える視点を提供することにあるといってもよい。

教科書・参考書

テキストとしては、現在執筆中の教科書の原稿を使用する。原稿そのものは、何回かに分けてこの授業のWebサイト

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~ctshimiz/keieiseisaku/index.html>

にアップロードされる。該当の回についてプリントアウトして持参すること。今年に関してはぎりぎりにアップロードするということはないと思われるが、最悪の場合には前日（日曜日）になることがあるので注意してほしい。

なお、一般的な経営学の教科書としてとりあえず2つを挙げておく。

高橋伸夫『経営の再生』新版, 有斐閣, 2003。

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』第3版, 日本経済新聞社, 2003。

内容

内容的には以下のようなものになるが、予定には変更がありうる。

1. イントロダクション
2. 企業システムとは何か？ 全体像の把握
3. 雇用システム
4. 金融システム
5. ガバナンス・システム
6. サプライヤー・システム
7. 市場システム
8. 日本型企业システムとは何だったのか？
9. 1990年代における企業システムの変化
10. 終わりに

成績評価

成績評価は期末試験による。

その他

今期のオフィスアワーは火 15:00-16:10。この時間に研究室を訪れる場合には予約は必要ない。それ以外の時間に研究室に来る希望がある場合にはあらかじめメールで予約を取ること。